

豊かな川から豊かな海へ
市民による「豊かな海づくり大会」
の呼びかけ

各位

2009年12月

粕谷志郎（長良川市民学習会）
辻 淳夫（藤前干潟を守る会）

来年の6月に、岐阜県主催の第30回全国豊かな海づくり大会 岐阜長良川大会が催される予定になっています。副題は「清流がつなぐ未来の海づくり」となっていますが、長良川は河口堰の建設で海とのつながりが妨げられたままとなっています。来年は、河口堰運用15年となりますが、堰下流のヘド口は深刻で、ヤマトシジミはもちろん、底生動物が見あたりません。堰上流の淡水域でも、随分上流でないとマシジミが生息できません。堰上下流のヘド口には環境ホルモンなどの化学物質や重金属が堆積しています。鮎やサツキマスの漁獲にも深刻な影響を与えています。さらに、徳山ダムに貯めた水を長良川に流そうとする導水路計画も、当面の事業凍結とはなりましたが、当の岐阜県が計画実施を求めています。無駄な事業であるばかりか、冷たい、藻類の繁茂したダムの水を流すことによる環境悪化の懸念を払拭することは出来ません。

このような、長良川や伊勢湾が抱える問題を考える、市民による「豊かな海づくり大会」を呼びかけます。

記

開催予定日 平成22年6月5日（土）、6日（日）

各団体、個人の参加による実行委員会形式で詳細を決定する。